

「平成 30 年度 鳥獣害対策連続講習会 in 生沢・寺坂地区」

大磯町では、駆除に依存した鳥獣害対策から脱却し、野生鳥獣を寄せ付けない・増やさない地域づくりを進めるために、地区を単位とした連続講習会を開催しています。平成 30 年度は、イノシシ、シカ等の被害が出ている生沢・寺坂の2地区を対象に、下記のプログラムを実施し、正しい知識・ノウハウの普及と、今後の対策に向けた意見集約を進めました。

	実施日・プログラム	概要		
第1回	6月3日(日) 座学 (17名参加)	対策の基本的な考え方と、被害を克服している地域の事例について講師に解説していただきました。具体的には、イノシシやシカ等の被害は、人間が「エサ」と「ひそみ場」をつくって、鳥獣を寄せ付け、増やしてしまっていることが大きな原因であることを学びました。		
第2・3回	6月3日(日)、4日(月) 環境点検 (6名、17名参加)	地区内を歩いて課題点を見つけ、具体的な対策方法を学びました。本地区でも、鳥獣をおびき寄せる「エサ」と「ひそみ場」が多くあること、また、本地区ではこれまであまり被害報告がなかったシカについても広い範囲で生息しており、早急な対策が必要であることが確認されました。		
第4・5回	9月2日(日)、3日(月) 座学※ (4名、8名参加)	対策の基本的な考え方と、被害を克服している地域の事例について講師に解説していただき、第1回の復習をしました。 <small>※「対策の実践」の予定だったが、雨天の為、座学に変更</small>		
第6回	2月3日(日) 今後に向けた話し合い (10名参加)	この一年間の講習会で学んだ内容を振り返り、地域の課題と対策方法を再確認しました。その中で、地区内のより多くの人に対策を呼びかける工夫が必要だという意見がでました。また、県から鳥獣の出没状況などについて調査した結果の報告がありました。		
※	2月3日(日) 対策の実践(生沢) (8名参加)	守れる畑にするために、総合的な対策方法の実習をしました。具体的には、①鳥獣のひそみ場にならないように周辺の竹林を整備し、②ピワヤクリ等が鳥獣をおびき寄せないように柵の中に果実が収まるよう、縮伐・剪定をし、その上で、③シカとイノシシ両方防げる電気柵を設置しました。 <small>※第4回の振替として実施</small>		
※	2月4日(月) 対策の実践(寺坂) (7名参加)	シカやイノシシがひそめない竹林整備の実習を行いました。無理なく有効な対策にするには、林縁部を皆伐するのではなく、林内の竹を間引いて見通しをよくすることを学びました(1000㎡あたり400本程度竹が生えている状況にすること。目安としては、傘をさして歩ける竹林。) <small>※第5回の振替として実施</small>		

*この取り組みは、神奈川県「平成 30 年度 地域ぐるみの鳥獣被害対策に係る立ち上げ支援重点取組地区」の一環として実施しました。

～ 井上雅央 講師 プロフィール ～

京都大学博士(農学)。奈良県果樹振興センター等の勤務を経て、近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害研究チーム長を歴任。退職後、島根県、熊本県等でアドバイザーとして継続的に活動。近著に「女性がやればずんずん進む獣害対策」(農山漁村文化協会)。

■主催：大磯町有害鳥獣対策協議会

(事務局：大磯町産業観光課・環境課)

■協力：かながわ鳥獣被害対策支援センター、

湘南地域県政総合センター環境調整課、JA 湘南